

令和 2（2020）年度学校評価アンケート集計結果の分析と考察

1 はじめに

今年度から、昨年度の学校評価実施の反省を活かし、保護者の学校評価については例年通りアンケートの形式をとり、教員は、今年度の重点目標の反省・評価をもって対応することとした。

また、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響のため、学校行事の中止や変更があり、授業参観が行われず、PTA 活動も限定されたこともあり、保護者の学校評価アンケートの評価の選択基準に、例年には設定していない、「E: わからない」を設定した。

令和 2（2020）年度学校評価アンケート

※アンケート回収率 72%（全保護者 25 名中 18 名）

※評価基準「A:よく当てはまる、B:やや当てはまる、C:あまり当てはまらない、
D:当てはまらない、E:わからない」

[教育活動全般について]

※（2）「学校行事について」、（3）「児童生徒の健康面、安全面について」、（4）「児童生徒の人権への配慮、個人情報の保護について」、（7）「栃木県立リハビリテーションセンターとの連携について」、（8）「情報発信について」の項目は、A+B の評価で約 90%以上であった。今年度の新型コロナウイルス感染の影響を考慮し設定した、E 評価と答えた保護者が 1, 2 名見られた。

※（1）「個別の教育支援計画、個別の指導計画について」、（5）「児童生徒、保護者の相談について」、（6）「学習状況の説明について」、（9）「災害についての対応、安全確保、説明について」の項目は、昨年度同様 A+B 評価で 100%であるが、昨年度より B 評価が増えている。

[児童生徒の指導について]

※（2）「交流活動、合同学習について」、（3）「自立を目指した教育活動について」、（5）「体罰の防止について」、（6）「いじめの防止について」、（7）「学習内容の定着について」、（8）「児童生徒の思いに配慮した指導について」の項目は、A+B の評価で約 80%以上であった。今年度の新型コロナウイルス感染の影響を考慮し設定した、「E:わからない」と答えた保護者が 1～3 名見られた。

※（1）「教材教具、授業の工夫について」、（4）「進路指導について」の項目は、昨年度同様 A+B の評価で 100%であるが、昨年度より B 評価が増えている。

【考察】

・昨年度に比べ、二つの大項目とも B 評価が多くなり、E 評価は数名見られたが、C や D の評価は見られなかった。新型コロナウイルス感染症の影響により、教育活動の中止、変更があり、授業参観も行えなかった。そのような状況の中で、ホームページでの学習情報などの発信、様々な通信、連絡帳や電話を活用しての保護者への連絡・相談受付、保護者懇談、家庭訪問などでの写真や動画を活用しての説明などを工夫することにより、本校の教育活動に対し概ね理解を得られているというアンケート結果になったと考える。

[PTA 活動について]

※それぞれの項目について、1～5名の間で「E:わからない」と答えた保護者が見られた。

※(1)「PTA 活動に対しての学校の協力について」、(4)「PTA 通信について」は、E 評価以外は A、B 評価のみであった。

(2)「PTA の事業はより多くの保護者の意見を取り入れ計画し円滑に運営されている」

・C 評価が昨年度 0 名 → 1 名になった。

(3)「私は PTA 活動 (PTA 総会議事の書面議決、ベルマーク収集協力を含む) に関心を持ち、可能な限り参加し、他の保護者との交流を積極的に行っている」

・D 評価が昨年度 0 名 → 4 名になった。

(5)「PTA 研修会 (進路講演会・介護研修) は、参加または PTA 通信、進路だよりで確認することにより、大変有意義であった」

・C 評価が昨年度 1 名 → 0 名、D 評価が昨年度 0 名 → 1 名になった。

【考察】

・本校は様々な理由により栃木県立リハビリテーションセンターのこども療育センターに入所している児童生徒が全体の 2 / 3 在籍している。そのため、保護者は、PTA 活動には参加しにくい状況がある。さらに、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、学校行事の中止や変更、PTA 活動も計画通りに行えない状況があった。C や D の評価については、アンケートの表現は今年度の状況に合わせたが、保護者の参加機会が減ってしまい、強く「活動に参加できなかった」、という思いが表れた結果ではないかと考えられる。

2 まとめ

今年度は、例年と異なり、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、学校行事の中止や変更があり、PTA 活動も計画通りに行えない状況が多くあった。今回のアンケートでは、新型コロナウイルス感染症の影響を受けての評価ではあったが、ホームページでの学習情報などの発信、様々な通信、連絡帳や電話を活用しての保護者への連絡・相談受付、保護者懇談、家庭訪問などでの写真や動画を活用しての説明などにより、本校の教育活動が保護者から受け入れられているという結果になった。

また、これまでも栃木県立リハビリテーションとの連携が重要であることは十分認識していたが、今年度については、日々変化する社会状況の中で、栃木県立リハビリテーションスタッフとの連絡、確認が例年以上に必要となり、関係性の重要性を再度強く認識した。来年度も、今年度の連携を踏まえながら、必要な話し合いの場を設定し、日々の連携も十分に図りながら、通学生の保護者との連携と同様に、児童生徒の健康安全についての対応を行っていききたい。

来年度も、どのような状況が起こるか分からないが、検討し準備してきたリモートでの授業などの ICT の活用等、今年度確認できた内容を社会の状況を踏まえ、必要な教育活動の見直しを行いながら、児童生徒、保護者の思いを受け止め、地域、関係機関と連携し、校内の教職員がコミュニケーションを十分に取しながら、本校の教育活動を行っていききたい。